

説林



ニュー、イングラランドの

一家庭 (續さ)

松本亦太郎

ゼンツルマンに相對するものがレーディーである、
レーディーとは優美にして威儀具はり且教育ある
婦人を指して云ふのである、婦人を敬愛する社會
でなければ眞のレーディーは出來難い、ニュー、
インクランドと云ふ所は大層婦人を貴重する所で
あつて、日本などから始めて行て見ると世の中が

女の世の中になつたのかと思はるゝ程である、是
れは必しもニュー、イングラランドに限つた事はな
いので米國一般の風である、概して白人種は婦人
を貴ぶ風が厚いので日本から始めて獨逸佛蘭西あ
たりに行く人は先づ社會に於ける婦人の位置の高
いのに驚く様であるが、米國とさては逆も獨佛あ
たりの比ではないのである、其米國にても就中ニ
ュー、インクランドあたりにては婦人を敬愛する
事が厚い、どうも其原因は種々であるが恐く此心
は其本國なる英國から傳つて來たものであらう、
一躰アングローサクソン人種は他の人種に比す
ると婦女を敬愛する心が一層深いやうである、是
れは幾分か人種の本能に原いて居る様に思はれる
其上に英國では婦女がよく教育されて居つて精神
上から云つても體質上から云つても人より敬愛せ

らるゝに足る價致を具へて居るのである、英國の女子教育は近頃始まつた様に言ふて居る人もあるやうであるが、夫れは恐くは學校教育に就てのみ言ふのであらう、英國あたりには於ては家庭に於て教會に於て或は社會の種々なる範圍に於て婦女が教育さるゝ道が幾らもあるので教育は學校許りに限られては居らない、學校教育は教育の内容にも年月にも太抵限りがあつて、英國あたりのやうに進歩した國になると學校以外より受る教育の方が或は遙に勝つて居るかと思はるゝのである、夫れのみならず英國の婦人は自國外に旅行し或は滞在して旅行先きにて、種々なる教育を受ける事がある、夫れであるから仮令英國の女學校教育の程度が割合に高くないと云つても、夫れで英國の女子教育が幼稚である、或は幼稚であつたとは容易に

云ふ事は出来ないのである、是れは單に智徳藝能と云ふ様な精神上的の教育許りに就てではない身體を鍛練する事に就ても同様である、テニスとかゴルフとか乗馬とか云ふ様な事或は馬車を驅るとか船を漕ぐとか、氷の上をスベルとか云ふ様な事が英國では婦女の常の遊戯になつて居る、其上に少し都會メイタ土地になると、シヨツピングと唱へて毎日午後散步ガテラに市街を逍遙しつゝ店頭飾り立てゝある品物を眺めつゝ行く事が盛に行はれる、さう云ふ次第で體操と云ふ様な窮屈な學校の課業的事でなく愉快に身體を強健活潑にする風習があるから、英國あたりの婦人は随分血色が美しくつて元氣が盛んである、皮一重の元氣ではなくして、根帶の深い抜く可らざる元氣がある、婦女若し全く無教育であつて心が出來て居

らない、其上に身體が虚弱であつたならば人から
 憫まると云ふ事はあつても人から十分に愛敬貴
 重さるゝと云ふ事は先づ六ヶ敷い方であらう、愚
 の子程可愛い、體の弱い子程可愛いと云ふ事實は
 世間にあるが、夫れは情合の本能により結び付け
 られて居る親子の間に限られるので云はゞ親の慈
 悲であつて世間普通の人々の間に行はれて居る關
 係とは云ひ難いのである、婦女は心身共に弱いも
 のであるから之を助け之を愛せねばならぬと云ふ
 考から大切にされるのでは男子の憐憫慈悲を受
 くるやうなものである、男子の憐憫を只管頼みに
 して居るやうでは婦人が社會より尊敬さるゝやう
 にはならない、尊敬さるゝには夫れ丈の價致が
 婦人に出来なければならぬ、一口に云へば婦人
 がエラクなる事が必要である、英國あたりの婦人

は實際エライ所があるので、其價致に對して社會
 が尊崇の心を致すのである。

婦女を大切にする本能がある上に婦女がエライ
 と云ふのであるから英國では自然に婦女を尊敬す
 る心が厚くなつたのであらう而して其習俗がまた
 ニュー、イングランドに傳つて來たのであるが、
 新開の米國に於ては之に加へてなほ一層婦女を大
 切にせねばならぬ事情があつたのである、移住の
 當初には土蕃が随分處々に出没して白人を襲撃す
 ると云ふ様な事があつたので、日曜日などに婦女
 子が教會へ行く時は男子は鐵砲を肩にして途すが
 ら護衛をなしたと云ふ事である、或は殖民地など
 は何處も同じ事で最初は婦女よりも男子が多數で
 あるから自然に婦女を重んずると云ふ様な事情も
 必ずあつたに相違ない、併し是等の事情よりも遙

に勝りてニュー、イングラント人が殊に婦人を重んずるに至つた原因がある、夫れは宗教上の考に本いて居るのである、ニュー、イングラント人の信ずる宗教は前にも述べたる如くプロテスタントチズムの醇の醇なるものである、基督教と云ふ宗教は東洋から出たのであるが他の教と異りて著しく婦女を大切にする事を教へて居る、嘗に教へて居る許りでなく耶穌自身が婦女に對する態度は頗る理想的であつて當時の猶太の學者などが塵芥の如く賤しめて居つた婦女をさへ親しく之を教訓する事を辭せなかつたのである、彼れが其教を世に説いた時に之を謹んで聽いた者のうちには随分婦女が居つた而して餘程傳教の事業を扶けて居る其後此教が羅馬大帝國に進入したのであるが其際に羅馬婦人と唱へらるゝ見識あり且つ財産ありて

當時の社會に頗る勢力のあつた婦人が尠からず力を致して居る、羅馬帝國が此宗教を撲滅しやうとして大に其宗徒を迫害殘殺した時に水火猛獸の危難をも怖れずして此宗教の爲めに殉死したものと中には隨分藝能ある淑徳ある妙齡の婦女なども澤山にあつて、後世に至つて夫等殉教婦女を追悼して式は其姿を彫刻となし或は繪畫となしたるものなどが以太利あたりに行くときまだ遺つて居る、近代の畫などにもかくの如き婦女殉教の悲劇を畫題となしたるものを往々見る事がある。

斯の如き次第にて歴史上婦女と其宗教とは相互待つ所がある、一躰此宗教が婦女を等閑にしないのは此宗教本來の教儀から來て居るので、其教によると凡そ人間と云ふものは生れなからにして極めて尊嚴なる道徳上の位を具へて居るもので全

宇宙の富を以てするも人一人を買ひ取る事は出来ない程貴いものであるとするのである、其點に於ては男も女も區別はないので、男が貴い存在者である如く女も同様な貴い存在者である、夫れであるから男を貴はねばならぬ如く女を貴はねばならぬと云ふ事になる、男尊女卑と云ふ習慣の行はれて居る社會の人が見ると基督教は殊に女を貴ぶやうに見へるが、必しも女を大切にせよと教ふるのではない、人間を大切にせよと云ふのが其教の本義である、カントは古今に通ずる大哲學者であつて西洋諸國は勿論日本などでもカントを尊崇する人は極めて多いやうであるが、其カントは人を道具として取扱つてはならない、尊嚴なる位を具へて居る存在者として之に對せねばならぬと云ふ事を言つて居る、世界の大知識はさう云ふ様な事

を説て居るのであるが、社會の進歩するのは一向涉取らぬもので、弱肉強食動物時代の遺風がなか／＼去らないから、名僧知識の云ふた事は理想になつては居るが實行さるゝ事が速やかでない、弱い者は矢張強い者の道具にされたり餌食になつたりするのが世の中の常態であつて、體力の弱い女はいつも蠻勇力の強い男の爲めに壓制せられ輕侮せられ憐憫せらるゝと云ふ姿になつて居るのである、殊に古來の風俗習慣言傳へ等が社會の制裁になつて居る所では女が男と並立する位階に向つて進む事が六ヶ敷のである、所がニューグランドの最初の住民はプロテスタントイズムに熱中して居る恐ろしい元氣のある人民で、舊世界の腐敗せる舊慣故格には大反對の人々であつた、彼等が萬死を決し遙々大洋を越えて、無人の境とも謂つべ

き新天地に移つて來た譯は前に申述べたる如く思ふ存分己れ等の平生理想とする所を世に實現し自由平等不羈獨立の生涯を送らんが爲めであつてビユーリタン風のプロテスタントイズムは彼等の篤く尊信する所であつたから、其教の本義をとこまでも世の中に實現しやうと熱中したのである、前に述べた様な次第で女を貴ぶと云ふ事も其教の本義から自然に出て來る、男女は其職能の上に於てこそ相違はあれ、人間と云ふ天與の位から云ふと同じであると云ふ事になつて來る、新世界であるから此考を實行する事が自然に容易である、斯の如き宗教上の考と前に挙げたアングローサクソン人種の婦女に對する本能來歴及新移住地に於ける特別なる事情とが相合してニュー、イングラントに於ては殊に婦女を敬重すると云ふ習慣が養成

され社會に於ける婦女の位置が實際 上大に高くなつて來たのである。

婦女を敬重する心が本になつて婦女を教育する道が漸次に開けて來た女子の初等教育及中等教育はニュー、イングラントに於ては随分早くから行はれた其後に至りて師範學校も澤山に出來社會が進むに従ひ女子に高等なる専門教育并に大學程度の教育を授くる學校が所々に勃興して來たのである、是等の高等なる教育が進歩した事の急速なるは實に驚く可き程で、今日に於ては世界に冠たる女子大學はニューイングラント及其附近に於て之を求めねばならぬやうになつて來て居る、是等大學中には規模の頗る大なるものがあつて一校の生産固定基本金合して四百萬圓以上のもものが幾らもある、而して一人の女學生が授業料、食料、寄宿

料として學校に支拂ふ金額は一ヶ年の最低額が凡そ千圓内外である、ニューヨークランドは其附近の地を合せても面積は狭い幾らもない所であるに斯かる大學が數ヶ所もあつて其上にニューヨークランド及其附近の有名なる男子の大學は其大學院に女子の入學を許す所がある、生活上の必要より一定の業務に就かんとする者は夫々専門の學校に入り或は師範學校などに入るのが通例であるが大學の方は汎く學藝を教へて學生の心性材能を發達せしめ高尚なる品性を陶冶せしむるのが寧ろ其目的で大學院などの方では一步進んで學問の蘊奥を攻究せしむるのが其目的になつて居る、夫れであるから大學は女子をして職業を得せしむるよりも寧ろ之をして眞のリーダーたりしめ眞の學者たらしむるを其本務として居る、恰も男子の大學

がゼンツルマンの養成所である如く、女子の大學はリーダーの養成所となつて居るのである、米國の女子教育はコエデューケーションであつて男女を同じ所に同じに教育し同じ様な人を拵らへやうとするのが最初からの目的であるなどと云つて居る人もあるやうであるが、米國女子教育の實際はさう十把一からげに説き去る譯にはいかない、男女合併教育は米國の西方及南の方の新に開けたる土地には盛に行はれて居る教育法で是は其地方の來歴上の必要に迫まられてさうなつて來たのであるがニューヨークランド地方及米國中部に於ては男女は多く別々なる學校で教育されて居るので此地方には獨立の女子大學が多いのである、上來長々と述べたる如き次第にてニュー、イングランは男子教育の中心である如く亦女子教育の

中心となつて世界何處の國も及ばざる女學校を設立し、因襲の舊弊以外、經濟の困難以外に超越して婦女の心身を教育したのである、其結果としてニュー、イングランドは身軀の強壯にして元氣豊なる婦女而かも學問あり藝能あり、意志決斷力あつて兼て優美清淑の徳を具へたる婦女を多く世に出だすに至つたのである、ニューイングランドには前に述べた如く立派なるセンツルマンの標式を具へて居る人物が多い、而して一方には立派なるレーディーの標式ある婦女があつて之に相對して居るのである、此地に如何なる性質の家庭が出来るかと云ふ事は實際を見ずとも略ぼ想像はせらるゝのである。

(未完)

寄書

女子の總べて男子に比し
思考力に乏しき所以如何
といへる質問につきて

越後 愛讀者の一人

第一號の質問に就きまして私は事實たと思ひます、其原因として明言が出来ませんけれども思付た丈も申述べて見ませう。其主なるものは、第一慣習上、第二生理上に限ると思ひます。

第一慣習上に就て申しますが、これは母親の罪だと信じます。曾て感したまゝに述べますが或婦人會に四才許の女兒をつれて來られた人が御座いま

